

R 7

《中学生の部》

最優秀作（内閣総理大臣賞）

福島県いわき市立小名浜第二中学校

3年 鈴木 彩花

家族でつなぐ交通安全の輪

ある日の夕方、私は自転車で家に帰る途中、信号が青に変わったので横断歩道に進もうとしました。そのとき、右から来た車が急にスピードを上げて曲がってきました。ブレーキを強くかけ、なんとか止まれましたが、もし一歩でも進んでいたらと思うと、背中が「ゾッ」としました。たった数秒の判断で、命が守れるかどうかが決まることを、身をもって感じた瞬間でした。

その数日後、学校で交通安全教室が行われました。映像では、反射材をつけた人とつけていない人の見え方の違いが映し出され、夜道では本当に姿が見えにくいうことがわかりました。また、事故に遭った人の体験談を聞き、「自分は大丈夫」と思う油断が一番危険だと知りました。授業が終わる頃には、この学びを家族にも伝えたいという気持ちでいっぱいになりました。

家に帰ってから、夕食の席でその日の授業のことを話しました。私の話を聞いた父は、「確かに車を運転していると、夜は歩行者が見えづらい」と言いました。母は「スマホを見ながら歩いたり、自転車に乗ったりする人も多いね」と心配そうに話しました。姉も「横断歩道では、車が完全に止まってから渡った方がいいよ」とアドバイスをくれました。家族みんなで意見を出し合い、私たちの交通安全ルールをつくることになりました。

まず、道路を渡るときは左右を二回ずつ見ること。そして、信号が青でも、車が止まつたのを確認してから渡ること。自転車では必ずヘルメットをかぶり、夜はライトを早めにつけること。さらに、夜道では暗い服ではなく明るい色の服や反射材を身につけること。ルールはシンプルですが、どれも事故を防ぐために大切なことばかりです。

話し合い後、私たちはすぐに行動を始めました。父は自転車のライトをLEDに交換し、母は買い物バッグに反射材をつけました。姉たちは通勤用のバッグに光るキーホルダーをつけ、夜でも目立つようにしました。私は塾の帰り道に黄色い反射ベストを着るようになりました。最初は少し恥ずかしかったけれど、車のライトが当たるとしっかりと反射しているのを見ると「これで自分の命を守れる」と思えるようになりました。

交通安全は、一人ひとりの意識と行動の積み重ねです。家族で話し合いをしたことで、私は「守られている」だけでなく「自分で守る」大切さを知りました。事故は予告なく訪れます。だからこそ、日ごろから安全を意識し、行動に移すことが必要です。

これからも家族とともに交通安全を心がけ、学校や友達にも学んだことを伝えていきた

いです。そして、地域全体が安心で暮らせるよう、小さな輪を広げていくことが私の目標です。